

元戦車中隊長の模型部屋 第23回

皆さん、こんにちは！新型コロナウイルス感染予防に伴う様々な制約はまだまだ続きそうですが、一人一人が感染予防に心掛けながら日々戦っていきましょう。私も不要不急な外出は控えて、毎日家に籠っています・・・って、以前から変わっていませんがね（笑）家の中で黙々とプラモデルを作る日々・・・なんて大人な時間なのでしょう。これから何か始めたい方、おすすめです！

さて、新年早々に模型店に行き、福袋ならぬ福箱を購入し、その中には沢山のお得キットが！そのうちの一つに早速飛びつき製作を開始しました。娘達は「まるで子供みたい・・・」とあきれ顔。そうさ、男というものはいつまでも少年なのさ！で、今回はその中から・・・



キングタイガーです。

このキットはドラゴン社のもので、様々な追加部品やエッチングパーツを同梱し、この戦車が活躍したアルデンヌ戦の第506重戦車を再現したものです。詳しくはネットで確認してください。タイガーI戦車を沢山作ったことがあるのに、キングタイガーは作ったことがありませんでした。初めて作る車両は楽しいですね。色々調べたり他の方が作った作例を参考にしたりと・・・勉強は尽きません。で、作り始めるのですが、いきなり部品の穴の大きさが合わなかったり、説明書の指示番号が違っていたり・・・思い返せば辛い製作過程でした（´;ω;`）



とにかくデカイ戦車です。あの時代にこんな戦車が押し寄せてきたら、相手の連合軍もたまんなかっただろうな・・・とはいえ、文献によれば戦場に遺棄されたキングタイガーは戦闘によるものではなく、それ以外の理由の方が多かったようです。やっぱり駆動系の故障なのかな？

キットはストレート組です。必要なディテールアップ部品が同梱されていますので、別売りのパーツを購入する手間が省けてとてもよかったです。今回は下地にオキサイトレッドのサフェイサーを使用し、実車同様の赤い錆止め塗料の上から迷彩色を塗装する手法を試してみました。違いは・・・うーん・・・まあ、発色が違うかな？



塗装はGS | クレオスのラッカー塗料を使用しています。色の境界を筆塗りし、その中をエアブラシ塗装です。



基本塗装の後に、水彩絵の具を洗顔フォームを少し溶かした水で溶いて流し込み、毛細管現象を利用して凹部をクッキリさせます。そのあとウェザリングスティックをブラシで擦りつけ、濡れ綿棒で上から下にふき取る・その工程を繰り返します。風雨にさらされているので、フック基部、装甲の継ぎ目、水のたまりそうな場所等、錆びそうな場所に茶色のパステルコンテの粉を塗りつけます。排気マフラーは熱で防錆塗料は剥がれて錆がひどくなるので粉の状態が付着させています。



ハッチから砲塔内を覗くと砲尾部が見えます。まあ、ほとんど見えませんがね(笑)



車体側部に取り付けられている牽引ワイヤーはステンレスワイヤーを使用しており、リアル感が増すのは良いのですが、材質が固いので曲げて取り付けのに難儀しました。でも、従来のナイロン糸を使用するよりもぐっとリアル感が増します。砲塔側部の予備履帯を見てわかるように、履いている履帯は一枚一枚組み立て式で、まさに苦行！左右で約200枚の履帯を組み上げています。疲れました・・・



車体上部の泥の付着は、戦車に乗っていた頃を思い出しながら各種ハッチ周りを中心に施していきます。とにかく戦車は汚れるのです。泥の塊と言ってよいほどです。泥濘地の多いヨーロッパの戦場ではこんな泥の状況で済まなかったかと思いますが、ここはやはり模型、ほどほどに・・・とはいえ、足回りは泥をピグメントで表現し、泥濘地を突き進むキングタイガーの強さを表現しました。「お父さん、この戦車汚い！」娘たちの残酷なコメントが私の繊細なハートを撃ち抜きます・・・



ドカーン!

クソッ! 被弾!
総員下車!



ヨーゼフ少尉!
しっかりしてください!

カール、大丈夫か?
後退するんだ!

一人で戦争のワンシーンに耽る52歳男子...娘達も諦めています。
次回「元戦車中隊長の模型部屋」とうとう最終回! またみてくださいね!